

子ども・若者施策推進特別委員会

番号	令7・19号	受理月日	令和7年11月28日	付託月日	令和7年12月5日
件名	保育所等の入園見通しに関する情報提供と実態把握のあり方に関する陳情				
請願者					
紹介議員					

[要旨]

保育所等の利用に関して、世田谷区では持続的な待機児童ゼロが求められる一方で、家庭が生活設計を行うために必要な利用可能性の見通しや関連情報が、必要な時期に十分に得られない状況があります。こうした現状を踏まえ、以下の事項についてご検討いただきたく陳情いたします。

1. 保活における家庭間の情報格差を軽減するため、保育園の入園可否に関わる「実態に基づく情報」を、なるべく早い段階で確実に各家庭に届けられる情報提供の仕組みについて検討していただきたい。
2. その基盤として、既存のタッチポイント（ネウボラ面接、出生届、赤ちゃん訪問、区公式LINE等）を活用して子育て家庭の希望や状況を実態として把握する仕組みについて検討していただきたい。
3. 1および2を踏まえ、情報提供にとどまらず、今まさに困っている家庭に対策が届くよう、「実態把握→対応→効果測定（→実態把握）」という迅速かつ循環的な運用を可能とし、柔軟に施策を調整できる体制の構築について議論を進めていただきたい。

[理由]

<要点>

- 「保活」における情報格差
 - 保活とは一般に、子育て家庭が保育所等の入園に向けて必要な情報を収集し、利用可能な保育施設や入園手続きについて判断・準備を行う一連の行動を指します。

- 世田谷区では、入園を希望する家庭が「入園できるかどうかの見通しを事前に持てない」状況が広く生じており、保活が家庭の情報収集力や行動量に左右される“情報格差”の構造になっています。これは区民が生活設計・復職計画を立てる上で重大な支障となっています。
- 区が計画に活用する「需要・統計データ」と、保活で必要な「実態データ」の乖離
 - 世田谷区は、保育計画の策定にあたり「人口推計」や「過去の利用状況」などの統計的データを用いて将来需要を推計しています。一方、保育園入園を検討する家庭にとって必要なのは、「どの地域で」「いつ」「どれだけの家庭が」今まさに実際に入園を希望しているかという“実態データ”です。
- 先手的に解決策が子育て家庭へ確実に届くようにするための「実態把握→対応→効果測定」への転換
 - 現行の仕組みでは「年度ごとの結果を見て改善する」というサイクルを中心であるため、待機児童となる可能性が非常に高い家庭に対し、予防的・先手的に支援を届けることが困難になっています。

<以下、詳細説明>

1. 「保活」における情報格差

世田谷区の保活では入園希望家庭が申し込み、結果が明らかになる時期まで「自分が入れる可能性」や「どの地域・どの月齢が不足しやすいのか」といった基本的な情報を把握することができません。そのため、認可保育園に申し込む家庭と、認可外保育園や区外の園を早期に検討し始める家庭などとの間で、大きな情報格差が生じています。

署名に寄せられた声でも、

- 保育園に入れるか“運次第”と感じている
- 行政からは「申し込んで結果を待つしかない」と言われる
- SNS や口コミで情報をかき集めるしかない
- 認可外保育園も満員で、どこをどう探せばよいか分からない
- 自宅から遠い園を検討せざるを得ず生活が成り立たない
- 復職可否がキャリアに直結し、精神的負担が大きい

といった切実な不安が多数寄せられています。

保育園入園は家庭の生活設計・復職計画の基盤となるにもかかわらず、事前に見通しを得られない現状は、保護者情報格差・不安・過度な行動負荷を生んでいます。

2. 区が計画に活用する「需要・統計データ」と、保活で必要な「実態データ」の乖離

世田谷区は、毎年度の保育計画や定員数の検討にあたり、過去の利用状況や人口動態、申し込み数をもとにした「需要推計」を用いています。これは長期的な保育園整備の計画等を立てるに当たっては非常に有効だと考えます。

しかし、この統計的手法は「計画のためのデータ」であって、「保護者の生活設計のためのデータ」とは目的が異なります。

具体的には、保活で保護者が本当に知りたい情報は次のようなものです。

- 自分の住む地域・月齢の家庭がいままさにどの程度入園を希望しているのか
- 認可・認可外を含めて、現時点での程度の不足や偏りが見込まれるのか
- 自分のケースが“どれくらいリスクが高いのか”
- どのタイミングでどう動くのが適切なのか

つまり、区が現在扱っている「統計的予測」と、保護者が必要とする「生活設計のための実態情報」は、性質が異なっており、このギャップが保活の不透明さを生んでいます。

一方、世田谷区にはすでに、妊娠期のネウボラ面談、子育て訪問、公式LINE、乳幼児健診、子育て支援拠点での相談など、保護者と直接つながる多くのタッチポイントが存在しています。これらを活用すれば、

- いつ復職を予定しているのか
- どの時期に保育園を必要とするのか
- どの地域で短期的に不足が起きそうか

といった、保活において保護者が本当に必要な各家庭の状況に応じた実態データを、より早い段階で把握できる可能性があります。

しかし現行の仕組みでは、こうした実態データの体系的な収集・分析が行われているとは言えず、区も保護者も「どこで」「いつ」「どれだけ」不足が起きるのかを事前に把握することが難しい状況になっています。

したがって今まさに保活で困っている私たちに必要なのは、「統計的予測をより精密にすること」よりも、実態データを適切に把握し、保護者の生活設計にも役立つ形

で活用できる新たな仕組みの検討です。

3. 短期的に必要な家庭へ確実に届く支援を実現するための「実態把握→対応→効果測定」への転換

現在の保育施策は、年度単位での計画と改善を中心とした運用になっているため、結果として「今まさに困っている家庭」に対する短期的な対応が難しくなる場合があります。

入園できなかった家庭の状況が翌年度以降の改善に生かされる一方で、当該年度に必要な支援が十分に届かないという構造的なタイムラグが生じやすい仕組みになっているためです。

一方で、世田谷区にはすでに、妊娠期の面談、乳児家庭全戸訪問、相談窓口、健診、子育て支援拠点、LINE等、保護者とつながる多くのタッチポイントがあります。これらを活用して保護者の意向や状況を実態として把握することができれば、年度サイクルとは別に、短期的な対応を検討する余地が生まれます。

そのため、本陳情では具体的な施策を求めるものではなく、「実態把握→対応→効果測定（実態把握）」という、より弾力的で循環的な運用の可能性について、検討を開始していただきたい、という点をお願いするものです。

このような体制が整うことで、利用を希望する家庭の状況がより的確に捉えられ、支援が必要な家庭に必要な情報や対策が届きやすくなると考えております。

＜補足資料：署名で集められた声（抜粋）＞

以下に、オンライン署名（<https://www.change.org/hokatsu-setagaya>）で集められた、保活経験のある子育て家庭の実際の声を抜粋して記載します。

- “1歳1ヶ月の子どもを育てている母です。需要の積極的な把握と情報公開をぜひお願いします。私は2018年から3年ほど玉川地域に住んでいました。そのときに緑豊かな自然や待機児童ゼロを目指した取り組みを知り、子育てをするならぜひこの街でと考えていました。そして妊娠を機に家を購入し、いざ保活を進めてみると、「どうやらこの辺りは激戦地区らしい」という漠然とした話を保育園の先生方や地域のママ等から聞くようになりました。しかし、情報を集めようにも公開されているのは過去の入園希望者数などの実績データしかなく、窓口で相談しても入園のための具体的な策は得られず、結局口コミ情報

を足で稼ぐしかありませんでした。増加する待機児童に対する策はすでに計画・実施されているかと思いますが、既存のネウボラ面談やLINEといった仕組みを活かして区民の情報を積極的に吸い上げ、その情報を公開してほしいです。働きながら子育てをする区民に寄り添っていただけることを期待しております。”

- “私も世田谷区の一児ママです。認可保育園に我が子を入れたい人が、入れたい時期に全員入れられるようになっている仕組みであるべきですが、現実は違います。認可外保育園や他区の保育園を調べて見学したり、入園選考に当たり少しでも有利にならないか案内書を読み込んだり、区に何回も相談に行ったり…本来しなくて良い苦労をしているなと感じています。そしてその苦労が報われて、希望通り入園できるかも分からず。世田谷区にはこういった状況を一刻も早く改善して頂きたいです。育児にまつわる悩みは尽きませんが、まずはこの入園に関する不安だけでもなくして頂けるよう、よろしくお願いします。”
- “一歳1ヶ月の子供を持つ母です。（中略）お出かけひろばなどで周りのママたちは保育園に入れられないの、、？復職できなかつたらどうしよう、、などの不安の声を多く聞きます。みんなが必死になって点数を上げたり、妊娠中から保育園見学に行ったりと、【子供を安心できるところは預けて自分のやりたい仕事をする】という本来の素晴らしい目的とは別の角度で、焦りや不安でホカツをしているママ友も多いように感じます。（中略）1人でも多くの方々が、安心して子供を産み保育園に通わせられて、自身のキャリアを輝かせることができるように、この署名に賛同いたします。”
- “育児に専念したい気持ちがある一方で、認可・認可外の見学、区への相談、区外の園まで検討しなければならず、毎日不安と焦りでいっぱいです。（中略）勤務先では昇任試験の受験資格が育児休業期間に左右されるため、保育園に入れないことがそのまま雇用継続・キャリア形成に大きな支障をきたします。今年度10月の空きも落選し、今は片道1時間かけて認可外保育園に通わせる予定です。どうか来年度4月こそ、子どもを安心できる近隣の保育園に入園させたいです。区として、子どもの数に見合った保育環境整備と、親が安心して育児と就労を両立できる仕組みづくりを強く求めます。”
- “子どもを産むまで遠い存在だった保活。『どこかしら入れる』と思い込んでいたイメージは崩れ、いまは認可保育園はおろか、認可外保育園さえ空きがな

い状況に、今後の不安を抱える日々です。認可外の空き園は、助成金制度があれど毎月の保険料が高く、我が家は申し込みを断念しました。『保活は戦略的』に、『情収収集が全て』など、そうせざるを得ない状況になっていることが疑問です。各家庭それぞれに事情や葛藤があり、様々な答えを見つけ出していると思います。育休期間中は日々成長していく我が子と過ごしたい、復帰後は安心して預けられる近隣の保育園に入れたい！そう願う多くの方の望みが叶うよう、子どもの数に見合った保育園の整備をお願いします。”

- “世田谷区の1歳児の母親です。私は現在育休中で、認可保育園の1歳4月入園の申し込み済みです。区役所の担当の方や保育園の先生方、周囲のお母さんの話を聞けば聞くほど、保育園入れるかは、もう運次第と思って過ごしています。東京都が、0歳からの保育園無償化をはじめましたが、そもそも入園することができなければ何の意味もありません。まず、受け皿を用意してもらわなければ。希望園には入れなくとも、最大の10園書けばどこかに引っかかるってほしいと祈る毎日です。保育園入園は運次第という時代が早く終わることを願っています。”
- “（中略）妻と娘を引き離すのは本意ではないものの、共働きをしなければ暮らしを継続することができません。その一方で保育料の安い認可保育園に空きはなく、高額の保育料を払って認可外に通うか遠くの園に通うことを選択せざるを得ないようです。生活費を稼ぐために高額の保育料を払うこと、もしくは仕事でクタクタな上でさらに保育園の送り迎えに長い時間かかるなどを想像し、これから的生活に不安が拭えません。（中略）娘が産まれてからこれまで様々な形での支援を受けるなかで、区をあげて子育て支援に尽力されているのを感じています。一度にガラッと変えることが難しいのもわかります。少しづつでもいいので、私たち現役世代の声が届きますように。”
- “1歳2ヶ月の娘をもつ母です。世田谷区の街づくりを信頼し、私たち家族はこの地域で子育てをして暮らしていきたいと強く願っています。区がこれまで提供してくださった妊娠期からの面談やLINEでの情報配信など、大変感謝しています。親切で、きめ細やかなおでかけひろばの先生方、訪問面談の社会福祉士の方にもお世話になっております。今は育児休業中ですが、職場復帰後はキャリアをつなげようと、専門分野の勉強をしたり資格取得をしたりしてきました。それは安心して仕事に復帰し、地域社会に貢献したいという強い思いが

あったからです。しかし、その願いもむなしく玉川地域では認可保育園が圧倒的に不足しており、入園の見通しが全く立ちません。今後も働く意欲はあるもの、園の不足によってキャリア形成や生活設計が難しい状況です。周囲に相談すると復帰できず退職した方、区外へ引っ越しをされた方、それらを検討している方の声を多く聞きます。私も、世田谷区では娘を育てながら働けないのかな?と思うと本当に不安でいっぱいです。区への信頼を維持し、「これからもここ世田谷で安心して子どもと暮らせるように、働くように」するため、早急に保育現場の増設を強くお願ひいたします。

- “せっかくネウボラ面談など妊娠期から子育て支援のためのシステムはあるのに、保育園の入園が厳しいことを出産後保育園見学を始めてから知りました。認可外も満員で他の区や職場から遠い保育園を探すのは玉川地区くらいではないかと思います。せっかく子どもが来てくれて喜ばしいはずなのに何故このような不安を抱えているのでしょうか。女性だけ保育園が決まらない限り好きな時期に職場復帰できないなんて、などと悶々とする日々です。子どもと一緒にいたいところですがこの物価高では共働きしないといけません。共働きしないとやっていけない時代に未だに保活のことを知らされるのはほとんど女性で、行政から男性に保育園について発信されないのもうんざりしてきました。(中略) この地区での0歳、1歳を育てている親御さんの保育園に関する不安の多さは問題視すべきかと思います。未来の希望となる子どもが多い地域だからこそ、議論、あるいは対策ができるきっかけになることを願っています。”
- “私は1歳の子を育てる母親ですが、最初から諦め半分で認可保育園に申し込みをして同時に幾つもの認可外保育園の見学に足を運びました。どこの認可外保育園も空きが数人のところに何十人も応募が殺到している状況を知り、保育園を探すということになぜこんなにも不安な気持ちにならなければいけないのだろうと疑問に思いました。大切な我が子を預けられる場所が確実にあり、安心して職場復帰することができる環境が当たり前になり世田谷区の現状が心から辛いです。子育て世代が心地よく暮らせる街を目指して、子どもの数に見合った保育環境の整備を具体的かつ早急に実践していただきたいです。”
- “11ヶ月の子どもを持つ母です。初めての育児、保活。世田谷区は保活がかなりの激戦区というざっくりとした情報はあったものの、その他倍率や、どのように動いたら無事保育園入園にたどり着けるのか、具体的な方法についての情

報がまったくない状況。世田谷区に聞いても、申し込みをして待つだけしかできることはない、無償化が始まり「今年は厳しいかもしれませんね」と言われ、申し込みをするまでの保活も、申し込んでからも、これからどうなってしまうんだろう、保育園決まらなかつたらどうしようと不安でいっぱいです。せっかく無償化になったのに、さらに保育園への入園の道が厳しくなると言われると、本末転倒のように思います。提言書にもあるように、区に提出された情報から分析をして、私たち区民が具体的な情報を提示され、実際に安心して保活ができる環境、そして安心して子どもを預け働けるように、体制を整えていただきたいです。“

以上